

「赦しによって成される神の摂理を知る人生」

～赦しの完成を目指して～

ルカ11：4 創世記45：8～28

私たちクリスチャンは、再建という大きなテーマを担っています。そのために私たちが信仰を持って命をかけて様々な妨害から打ち勝たなければなりません。妨害とは私たちの心の闇です。悪いものは闇から私たちに入ってきます。闇は自己義によって成されました。私たちの心の中に、赦せない思いを与えます。自己義は、私は被害者であるという自己憐憫とつながっています。その結果、自分に危害を与えた人を憎むようになり、自らを守るために目に見えるものを神にし、守ってもらえるように願いました。自分は正しいという傲慢な思いが人生を狂わせていくのです。罪の根源は自己義です。出エジプトの時代、イスラエルの民は、金の子牛像を造り、モーセを殺そうとしました。それは自分が正しいという思いからです。赦しは最大の神様の恵みです。赦しの中に神の計画や摂理があるからです。キリストが十字架に向かっていったように、あなたの生涯をかけてあなたに成せと言われたテーマを成し遂げていけるように祈っていきましょう。

私たちはいつも赦せない思いをもっています。一度赦してもまた次の日に赦せない思いが出てきます。赦しを完成させるということはどういうことなのでしょう。ヨセフは兄たちに憎まれ、殺そうと穴に投げ込まれたところを危うくエジプトに売られました。再会した時、兄たちはヨセフはもう死んでいると思っていたので非常に驚き混乱します。かつての罪のために父ヤコブの怒りを買うことを恐れたからです。しかしヨセフは「私は怒っているのではない、だから恐れなくてください。私がここにきたのはあなたがたのためにイスラエルのために神がそうさせたのだ。」と言いました。そして「急いで父のところへ上って行って言ってください。あなたがたの子ヨセフがこう言いました。神は私をエジプト全土の主とされました。ためらわず私のところへ下ってきてください。」とだけ言いました。王ファラオが父ヤコブの全家族ともエジプトに下りゴフェンの地に住めるようにしてくれたのです。王が心配して彼らに恵みを与えたのです。なぜそのようなことができるのでしょうか。私たちがしようと思うことを完成させるためには1人ですることにはできません。共にいる人たちが喜んでくれないといけません。自分の人生を自分で決めるのではありません。私たちが大事にしないといけないことは環境が整うということで、それは暗闇の一番根底にある大きな問題が解決するということです。縛られている罪から解放されるということです。縛られている罪とは、誰かを憎んでいるということです。憎む心がある限り、神様が与えてくださったその恵みを得ることはできません。私たちの心の中にいつも自分は間違っていないという自己義がはびこっています。ヨセフはその自己義が取り去られ、父に彼らの罪を言わなかったのです。神様の摂理はすべての人に回復をもたらせます。赦しによってなされる神の摂理です。あなたを赦させるのはあなたを通して神の計画が成し遂げられるためです。それは摂理であって、神の計画とはあなたが戻ることです。あなたが今置かれている状況が赦さなければならぬことが摂理のためであるということを知らなければなりません。私達は、何でも悪魔のせいにしてしまいがちですが、決断するのは私達です。神に立ち替わって人を裁き、人をコントロールし、思うようにならないと罰を与えるという「自分神」にならないようにしましょう。私たちは神様に造られたもので、任されているものがあり、それを成し遂げることが神様の前に従うことです。自らの中に神がいなか探らなければなりません。人を裁き、人をコントロールし、人に罰を与えるのは神様がやることです。排他的な心はあなたが神になろうとしている瞬間です。イエス様を十字架に掛けたのは自らが神になった人の行為です。自分を救おうとする行為が神になろうとする行為です。ヨセフは彼らに彼らのしたことの責務を負わせませんでした。ヨセフの人生から救いを、赦しを完成させましょう。

① 自己義人と罪の大きさ 自己憐憫の実

箴言「人の目にはまっすぐに見える道がある。その道の終わりは死の道である。」というのが自己義人の道です。自分の人生の歩いている道が正しいと思っているとまっすぐに見えます。自分は間違っていないという行為が自分が神になって人を裁くのです。「しかし心の墮落している者は自分の道に甘んじる。」心が墮落するとは人を裁いているということです。自分が正しいと思ったら自分の道ができ、嬉しくなり、神様がいらなくなり、自分の道に甘んじていくのです。結果、よいものが離れていってしまいます。相手に決断させるのではなく、自分が決断しなければなりません。赦すことも謝ることも正しい道に戻ることも人と和解することもとても大変です。ヨセフは神様が自分を作り直すようにしていることが分かったので、赦しを成し遂げたのです。心の墮落している者が自分の道に甘んじていないか、自分が楽な道を通ろうとしている時点で、誰かを犠牲にしているということだからです。

② 心の墮落を納めよ 心の墮落 自分で対処しなければいけない

ミャンマーで多くの子どもたちを救っている日本人医師吉岡秀人さんの映像を見ましょう。彼は心の墮落を納めるために、自分で対処しなくてはならなくなる道をやめました。心の墮落とは闇の中に進むわけです。自分に与えられた生き方は誰かのために自分がフルスィングで生きるということを学んだのです。心の墮落をおさめる方法は、自分が何のために存在するのかを知ることです。彼は病気を治すことではなく、人生を助けることだと言っていました。自分の存在価値、自分がどう生きるかを見出しました。クリスチャンは赦すことで愛を流すという生き方をすることがフルスィングであるべきだと聖書では言っています。赦すと言うことは赦す力を神様から頂くことです。だからこそ墮落をおさめられるのです。私達は人を憎まない決断をしなければなりません。墮落の中に生きようとする闇とは赦さないと聖書に書かれています。赦すという決断は、その人の人生をも変える決断になるのです。

③ 必要性・励まし・徳を高める・ 尊厳を守る

私達が暗闇の中で生きることを止めて墮落から解放される唯一の道は赦しの完成です。そのためには4つのポイントがあります。その人に対して必要であることを行えるか、励ますことができているか、徳を高めているか、尊厳を守っているかということです。がむしゃらに生きることを次世代に見せることです。神を礼拝することと人を愛することと赦すことについて、がむしゃらに生きろと聖書では言われています。人が幸せになるためには、神を礼拝するしかないからです。ヨセフが兄たちにとった行動のように、本当にその人に必要なことを行い、励ますように語らなければなりません。私達は自分に必要なことを相手に求めています。あなたが語るのなら、その人に必要なことを語ってください。必要かどうかを判断するのは、励ましているかどうかです。そしてあなたがその人と交わることでその人の徳が高まります。これが赦しの完成です。なぜなら、神様がその人に与えた尊厳をあなたが知っているからです。これはキリストの十字架です。キリストが私達にくださったことです。私たちは神を愛し、自らを愛し、隣人を愛して赦して生きると自らの存在意義が見出せると分かっています。与えられた時間の中で神様を見出せない人は本当に人を愛することができません。だから私達はもう一度赦しを完成していきたいと願います。

(要約者: 浅野 恵子)

(2019年4月14日)